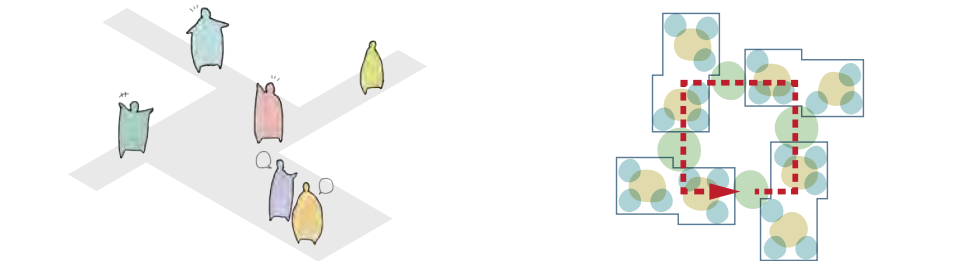




□ひとりひとりが居場所を見出せる学校

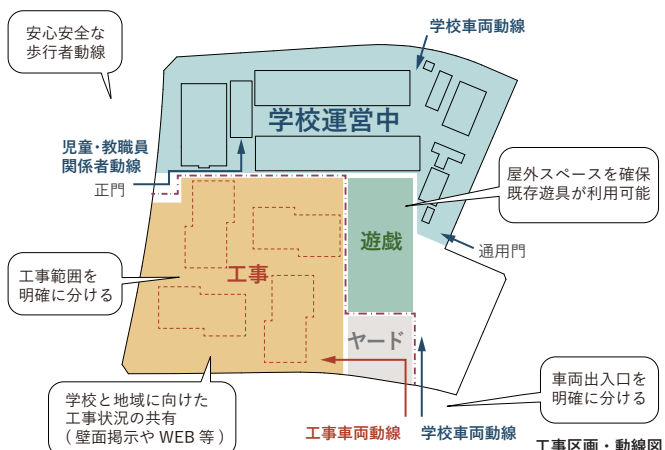
出会いや交流を通して自分の居場所を見出すことで、このまちに愛着を持てるような学校を目指します。個性の違うひとりひとりがお互いの違いを理解し、尊重し合える関係を育む場としての『まちかど』をつくります。

家のような親密な場所から広場のような開放的な場所まで、活動内容やその時の気分に合わせてひとりひとりが使いこなしていくことのできる居場所を回廊状の『とおり』がつなぐ、まちを歩いているような学校です。



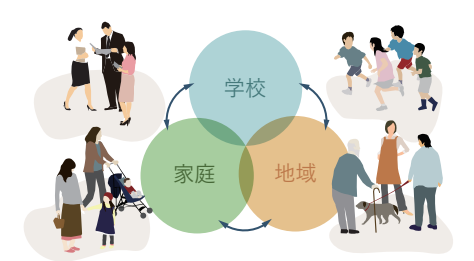
□居ながらつくる安心安全な学校づくり

工事中も児童が無理なく活動できるよう配慮した計画とします。新設する校舎をコンパクトに配置することで、児童が活動する屋外スペースを確保します。工事動線を明確に分離することで、建設中ものびのびと健やかな学校生活を過ごせる『居ながらつくる』ことを意識した学校づくりを目指します。



□学校・家庭・地域で育む学校

児童、教職員だけでなく、家族や地域の人々も日常的にこの場所を利用することで、学校・家庭・地域が一体となつて共に助け合う土壌を育み、災害時にも日常と変わらず拠り所となる『まちのよるべ』としての学校を目指します。



住宅地の中に建つ学校として、地域住民が愛着を持って日常から利用したくなるような『まちに溶け込む学校』を目指します。低層分棟型の親密なスケールの建物とし、周囲への生活環境に配慮した緑豊かな学校をつくります。



□曾於市特有の豊かな気候風土を活かした永く使い続けられる学校

曾於市は山に囲まれており、豊かな自然環境が魅力の一つです。夏でも比較的過ごしやすく、冬の日射量も豊富なため、それらの曾於市特有の気候を活かして、屋外を身近に感じられる学校をつくります。

持続可能な社会のために学校ができることを、エネルギーを遮る、減らす、活かす、創る、それぞれの手法を合理的なライフサイクルコストの下、バランスよく組み合わせることで実現します。



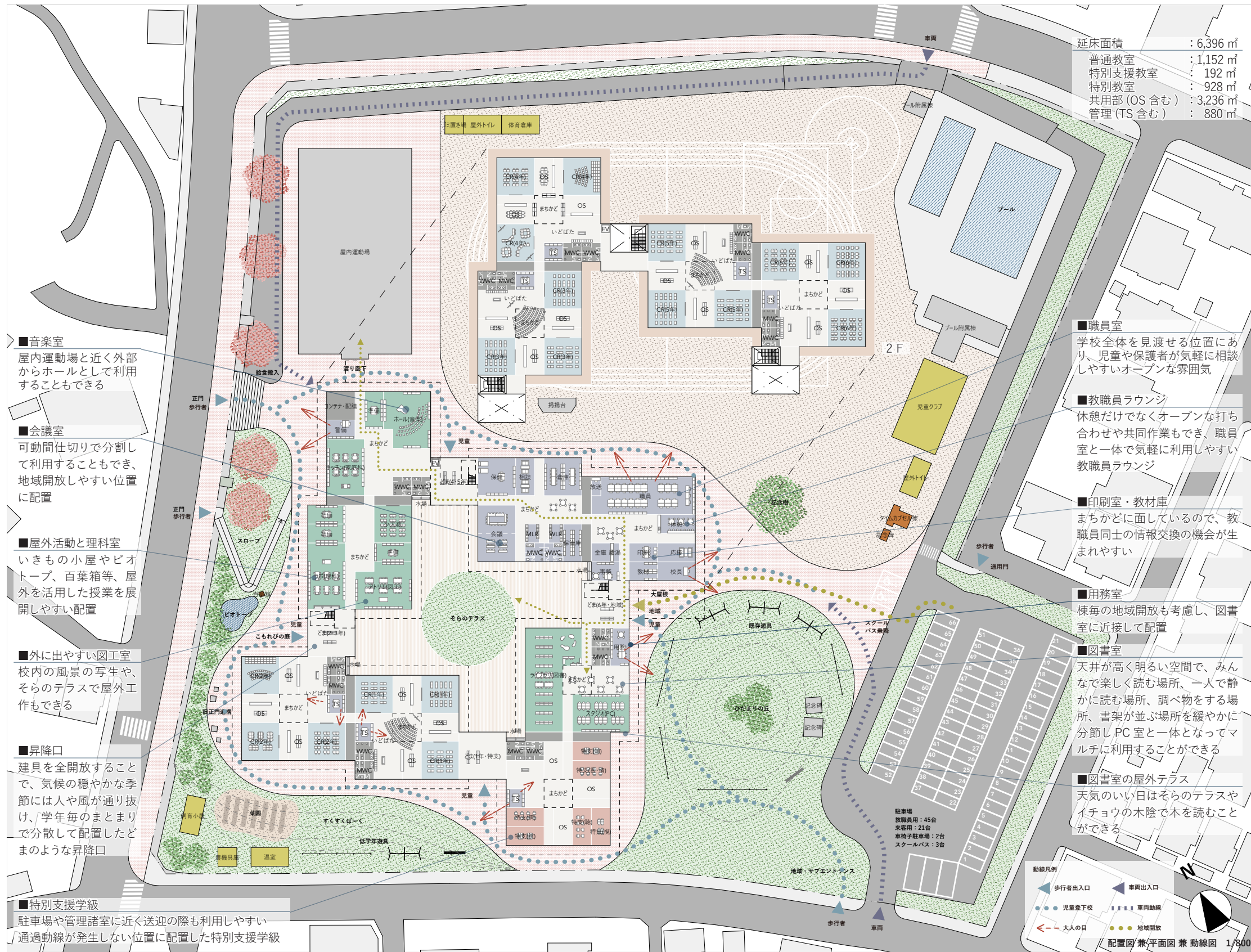
□対話の積み重ね&こまめなレビューによる、末吉小のスムーズな建替えプロジェクト

明確なテーマを設けた対話を重ね、設計案を更新していくことで、手戻りのないプロジェクトとします。基本設計段階で森林組合などへのヒアリングを行い、地場産材の強度・部材サイズ、供給が出来るかどうかなど確認します。コスト管理については、基本設計段階では規模と主要項目（躯体や外皮等）による概算、実施設計段階では費用対効果をより意識して工法・仕様等の検討を行い、レビューを設計チーム内でこまめに行うことで、建築の質の担保につなげます。

業務実施フロー	R6年度	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	R7年度	9	3	4	6	8	9	1	3	R10年度	6
基本設計	★																						
定例+説明会	定例	定例	定例+教職アノ		定例+説明会		一般図作成		詳細検討		成果品まとめ	承認											
条件整理																							
基本設計案検討																							
まとめ																							
一般図作成																							
詳細検討																							
成果品まとめ																							
承認																							
コスト検討																							
概算																							
概算																							
木材活用方針検討																							
詳細検討																							
造成設計																							
解体設計																							
開発許可申請																							
造成工事																							
入札																							
新築工事																							
移転準備																							
利用開始																							
見学会&使い方説明会																							
1年点検+教職アノ																							
メンテナンスについて教職員と共有																							
使い方説明会																							
使い方マニュアル																							
既存校舎解体																							
外構整備																							

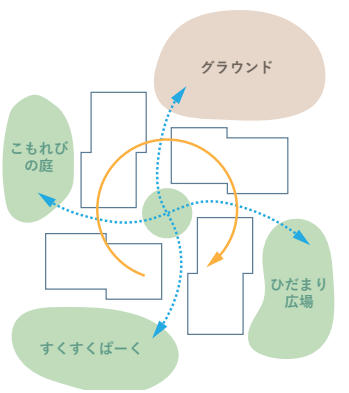


わかりやすい視覚的な情報を用い、意見しやすい対話を実現



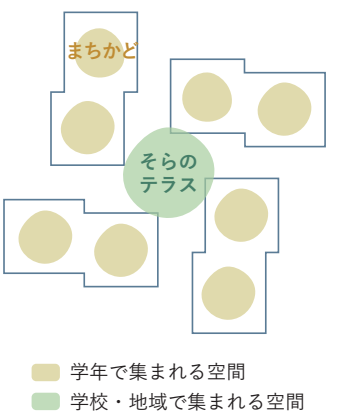
□風車配置と個性豊かな屋外空間

様々な方位から風が通り抜け、南側でなくても明るい、風車状の建物配置とします。これは「山に囲まれているため風向きが変化しやすい」「緯度が低いため太陽高度が高い」といった曾於の風土から受ける恩恵を活かした配置計画です。特徴ある4つの棟が敷地環境と呼応して、性格の異なる屋外空間と豊かな学びの場を形成します。



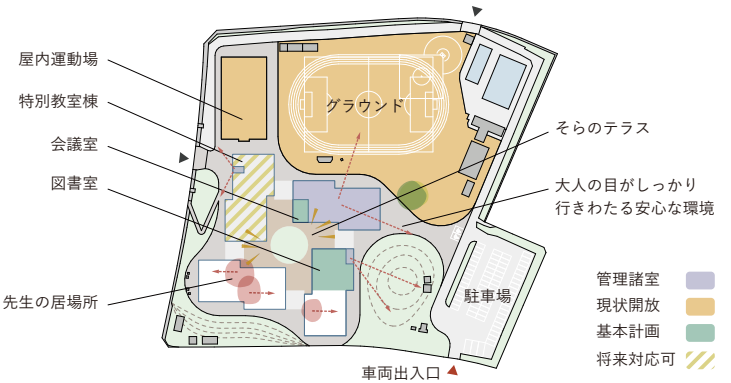
□学校、学年、学級を超えた出会い

児童の成長や授業のカリキュラムに合わせて、学年単位のクラスターを基本とし、低学年から高学年へと段階的な学習・生活空間を用意します。限られた面積の中で学年、学校、また、地域と学校で集まれる空間を用意します。建具を開放することで、『まちかど』が学年で集まれる場所となり、『そらのテラス』は学校全体や地域と学校とで集まれる場所となります。



□日常使いすることで災害時にも安心な学校

体育館と1階にまとまっている特別教室を地域開放ゾーンとすることで、児童の生活エリアと明確なゾーニングが可能です。また、『そらのテラス』は日常時には児童の活動だけでなく、地域開放時やイベント時の地域マルシェの会場に利用でき、災害時には炊き出しやトリアージスペースとなるなど学校と地域の核となる空間です。



ひだまりの丘
芝が広がり、低学年から高学年まで遊具で遊べる原っぱ



そらのテラス
上足で利用できる屋外テラス。図書や図工、低学年教室と一体的に利用



教室のまちかど
各教室とオープンスペースへの採光と通風に寄し、一体的に利用できるスペース



図書室のまちかど
天井高さを確保し、気持ちの良い図書空間を担保する木架構

□時代に合わせて伸縮するアダプタブルな空間

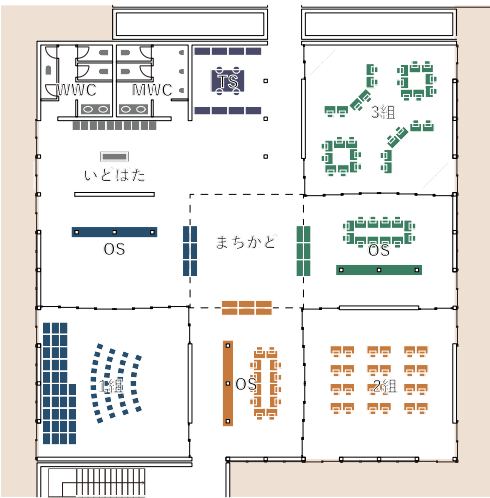
児童数が減少している現代において、時代に合わせて適応する教育空間が求められています。現状の35人×3学級から将来的に30人学級や学年2学級となった場合にも空き教室をオープンスペースとして利用しやすく、分棟配置としているため1棟まるごと地域に開放する使い方も可能です。また、大きな空間であっても、構造体の梁が適切な高さにあるため間仕切り位置の変更などに併せて形を変えることも可能な計画とします。

□学習内容に合わせて伸縮するフレキシブルな空間

学習内容が常に更新されていく現代において、学習内容の変化に合わせて柔軟に変化する学習空間が求められています。建具を開放することでまちかどが拡張して大きな空間となったり、まちかどの可動家具や防音カーテンなどを学習内容に合わせて利用することで主体的に空間の使い方を見出していくことが可能です。

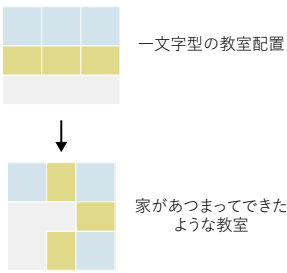
学級単位での活動

教室とOSが通過動線なしに一体利用でき、それにより、ロッカーや袋・上着の荷物掛け等が邪魔にならずに配置できます。学習でも、①発表の資料の準備②発表の練習④クラス内での発表を行う際にも他の邪魔にならず、展開できます。



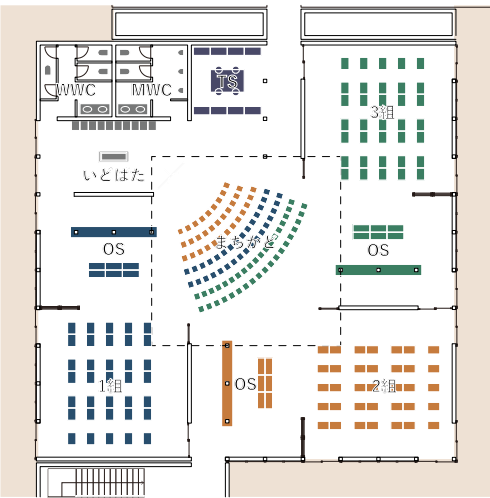
□学年クラスターの集合による学校

一文字の並列配置型の学校から学年3クラス単位の大きな家の集合として学校全体を構成します。クラスとしての独立性を保ちながら、隣のクラス、学年単位の活動などそれぞれの組み合わせが可能な教室とオープンスペース、廊下を組み合わせたクラスター単位を設計します。



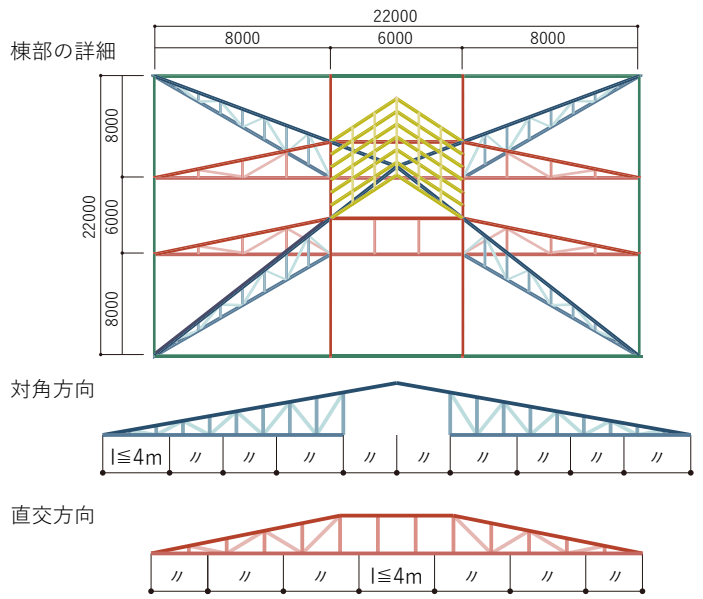
学年単位での活動

教室の建具を開放することで、中心に10M角の大きな無柱空間となり、机を動かさず、学年で集まることが可能です。また、教室の2方向がOSに面しているため、学年全体での習熟度別学習など、フロア全体を柔軟に利用することが可能です。



□一般流通材で無理なく作る構造計画

屋根は建物に対して対角方向の山形トラスと直交方向の片流れトラスを組み合わせた架構システムとすることで、調達しやすい小径材を用いながら、中心部を10m角の無柱空間とすることができます。また、黒板を設置する壁や水回りのコアを耐力壁（RC若しくは木造筋交い）として水平力を負担させることで壁の少ない開放的な空間とすることができます。床は一般流通材を組み合わせて2段重ね合わせた透かし梁とすることで、建物中心部にも光を取り込みます。



□合理的な建築の構成と維持管理に配慮した仕様によるライフサイクルコスト削減

シンプルな矩形のユニット構成とし、つくりやすく使いやすい建築とします。一般流通建材や地域建材の採用、木の現し仕上げにより、建設費を削減します。外壁清掃や設備の交換等のメンテナンスがしやすい計画とし、維持管理費を削減します。（軒・バルコニー、適切な機器配管スペース）自然エネルギーの利活用と適材適所の設備機器計画により、ライフサイクルコストを削減します。地元建材を利用し、単に安いのではなく、曾於のヒト・モノ・カネ・ノウハウに寄与する建築とします。

イニシャルコスト

工事項目	工事費(千円)
造成工事	67,550
校舎建設費	2,417,335
建築本体工事	1,891,612 *
電気工事(強電)	208,584 *
電気工事(弱電)	64,768 *
機械工事(給排水衛生)	147,745 *
機械工事(空調・換気)	104,645 *
倉庫・屋外WC	27,281 *
渡り廊下	47,538 *
外構工事	82,471 **
グラウンド整備工事	28,536 **
グラウンド暗渠排水工事	10,773 **
解体工事費	181,440 *
概算工事費	2,862,943

基本計画から更新 * 単価 ** 整備規模

ランニングコスト

修繕・更新の主な検討項目	更新	更新	更新
建築	修繕 更新	設備 (適時メンテ)	更新
金属屋根	10年 40年	盤・蓄電池等	20年
外壁高耐久塗装	10年 20年	空調機器	15~20年
建具	20年 40年	ポンプ類	20年
内装床	10年 60年	衛生器具(センサー付)	15~20年

竣工後(年) 0 5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60 65

期待耐用年数を60年とした場合のライフサイクルコストの概算

